

【まちあるき・勉強会「森があるまち、再発見」について】

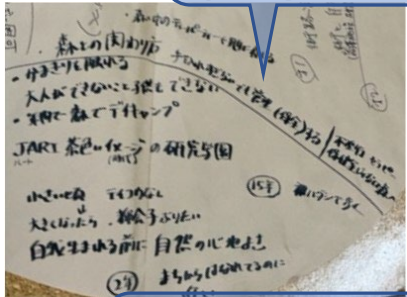
まちあるき参加者は10名であり、葛城大規模緑地では、まちに隣接する里山の良さを体感し、午後は学園の森義務教育学校の体育館にて、筑波大学体育系：野外運動研究室の渡邊仁助教から、身近な環境を活かした自然体験学習の意義についての講演をいただいた。11名の参加者の皆さんとまち・みどり・体験型の学習ができる環境について共有化の機会を持った。



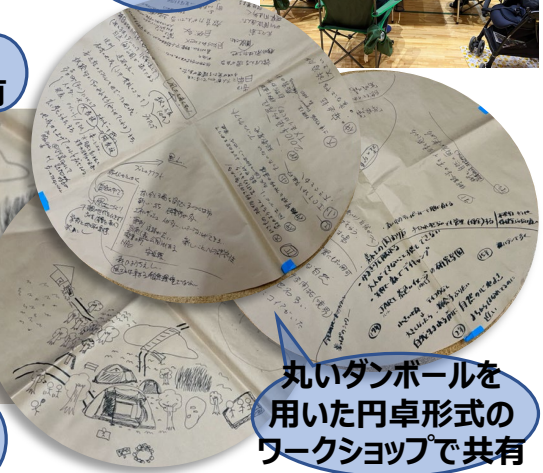
体育館でも
キャンプ気分
の講演会



先生の講演を聞いて知ったことや
考えた事を、書き出し可視化して共有



子どもが描いた「葛城の森でやりたいこと」
キャンプや小屋づくりなど



丸いダンボールを
用いた円卓形式の
ワークショップで共有

共有化ワークショップでは以下のような意見が寄せられた。市街地整備の中でも大規模緑地が残され保全され、この緑地の良さを知った声。学校近傍にあり、優れた環境教育教材としていわば地域と連携した学校ビオトープにも位置付けられ、そのような検討や関係性構築など行うことの重要性。今後、多様な学びを可能にしていくような取組みがあるとよい 等。

【実施してみて～今後の展望】

この度の2022年11月の一連の催事を行ったことから展望できることを以下に記す。

- ・研究学園エリアのまちあるきを行い、“このような行事の機会にまちの解説を聞いて実際にまちを歩いてこそ気づくことが多くある”ということが、参加者からも寄せられた。次年度以降も区長交流の場として工夫しながら継続して実施することが望まれる。
- ・現に、地域住民や子供たちの参加がある葛城里山クラブの活動が活性化することを期待したいが、現状の大規模緑地の保全は進めながら、地域の緑地としてより有効活用が図れるとよいという意見があった。一方、つくば市では市内全学園がコミュニティ・スクールという枠組みで学校と地域の連携が進められるなかにある。近隣には学園の森義務教育学校、春日学園義務教育学校が立地している。気候変動、生物多様性、SDGsの時代に、次世代の豊かな学びの機会（環境教育・野外教育）の場として活用することも考えられる。レクリエーション系・体験系の活動を、学校や地域団体（支部も含まれる）、大学等の連携により、体験系のプログラムを行っていくということも考えることが、今回の講演からのヒントとして得られた。学校との関係の在り方について、自然環境を教材として活用する場（＝地域連携型の学校ビオトープ）として正課では、生活科や総合的な学習の時間（つくばスタイル科）、課外活動として科学部や新たな部活動（レクリエーション、体験活動の地域クラブを組成した場合）との連携なども期待される。
- ・葛城大規模緑地を「現代の学校林」のような地域連携型の学校ビオトープとして活かすとよいという意見は参加者において概ね一致していたことから、支部においても、関係機関・各団体などと合意を図りながら、今後連携において協力的に対応することが望まれる。
- ・テダ松保存緑地でのアウトドア・ワーキングSPOTについても、参加者や見学者からは、今後も再度実施することを望むという声もあったが、今回の経験をもとに次年度以降の実施も考えたい。